

第 2 回 館 山 市 議 会 定 例 会 会 議 録
(第 3 号)

1 昭和60年6月25日(火曜日)午前10時

1 館山市役所議場

1 出席議員 25名

1 番	神田 守隆	2 番	田沢 勝信
3 番	山中金治郎	4 番	日下 君敏
5 番	川名 正二	6 番	生稻 隆
7 番	榎本 春光	8 番	小宮 利夫
9 番	福原 勤	10 番	横溝 功
12 番	石井 謀	14 番	伊藤幸太郎
15 番	渡辺 昭夫	16 番	松下 正己
17 番	近藤 好雄	19 番	黒川 平治
20 番	石井 武敏	21 番	吉田勇治郎
22 番	林 豊	23 番	伊賀 多朗
24 番	流山源次郎	25 番	五十嵐 昇
26 番	石井 正	27 番	安西 益男
28 番	安澤 徳順		

1 欠席議員 2名

11 番	飯田 義男	13 番	石井 昌治
------	-------	------	-------

1 出席説明員

市長	半澤 良一	助 役	小倉 澄男
収入役	山田 俊康	市長公室長	斉藤 武男
総務部長	川畑喜代志	民生部長	鈴木 力
経済部長	吉岡 政雄	水道課長	石井 敏夫
教育委員会 教 委 員 会 長	杉村 芳枝	教育委員会 教 育 員 会 長	福原 修

1 出席事務局職員

第1号に同じ

1 議事日程(第3号)

昭和60年6月25日午前10時開議

日程第1 議案第24号 館山市市税条例の一部を改正する条例の専決
処分の承認について

日程第2 議案第25号 昭和59年度館山市一般会計補正予算(第6

号)の専決処分の承認について

日程第3 議案第26号 昭和60年度館山市と畜場特別会計補正予算
(第1号)の専決処分の承認について

日程第4 { 議案第27号 館山市国民健康保険税条例の一部を改正する
条例の制定について
議案第28号 工事請負契約の締結について
議案第29号 工事請負契約の締結について
議案第30号 館山市教育センター条例の制定について
議案第31号 館山市青年館の設置及び管理に関する条例の
一部を改正する条例の制定について
議案第32号 館山市と畜場の設置及び管理に関する条例を
廃止する条例の制定について
議案第33号 館山市と畜場施設近代化基金の設置及び管理
に関する条例を廃止する条例の制定について

日程第5 請願第4号 快速列車の実現を求める請願書

日程第6 請願第5号 「非核平和都市宣言」の決議を求める請願書

開 議 午前10時02分

○議長(石井 正君) 本日の出席議員数25名、これより第2回市議会
定例会第3日目の会議を開きます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

議案の上程

○議長(石井 正君) 日程第1、議案第24号館山市市税条例の一部を
改正する条例の専決処分の承認についてを議題といたします。

質 疑 応 答

○議長(石井 正君) 御質疑を願います。

○1番(神田守隆君) 何点かお尋ねをいたします。

市税条例の改正に関する専決処分でございますが、個人市民税の均等割

の税率を1500円から2000円に引き上げるということでございますが、特にこの均等割の引き上げというのは市民税の中でも低所得階層に相対的に重い負担を課すということになるわけで、慎重な対応が求められると思います。均等割の引き上げに伴う税の増収分は総額で幾らになりますか、また、この増税の対象は何人でありますか、お答えを願いたいと思います。

それから、特別土地保有税に関してでございますが、今回のこの税の改正に伴い、これまで特別土地保有税を課税されていたものを今回の処置で課税対象外にする、こういうことでございますが、この課税対象外になるものは何件で、金額的にはその総額は幾らになりますか。また、土地の、その課税対象外になる面積はどのくらいありますか、お聞かせをいただきたいと思うのです。この特別土地保有税は土地の買い占めに対する罰則的な性格を持った税だというふうな理解もしているわけで、今回こうした課税をしないというようなことになるのも市の財政上の問題からいってもいろんな問題が出てくるんじゃないかと思いますので、そこいらについての具体的な数字をお聞かせ願いたいと思うんです。

○総務部長（川畑喜代志君） 神田議員の御質問にお答えします。

まず、第1点目の個人均等割を1500円から2000円ということで500円のアップをお願いしているわけでございますが、これに伴います増収と申しますか、ふえる分でございますが、総計では878万8500円ということになります。

それから、対象のいわゆる納税者ですが、均等割のみを納められる方が2054名、それから均等割と所得割2つ納められる方が1万5523名ということで、あわせまして1万7577名ということになります。今の数字に500円を掛けますと先ほど申し上げました878万8500円という数字が出てまいります。

それから、第2点目の特別保有税の関係でございますが、10年間経過したものについては税は免除する、課税しないという今回の改正でございますが、今回の改正によりまして影響を受ける分と申しますか、課税対象外になるものが、件数で言いますと40件になります。金額ですと5354万1560円ということでございます。それから、面積ですが、206

万7649平米ということでございます。

以上で答弁を終わります。

○1番（神田守隆君） 個人市民税の均等割の内容についてはわかりましたが、特別土地保有税では5345万、40件で、大変な市にとっては財源がなくなる、非常に大きな金額だと思うんです。5345万といいますと、1年ですから、きのうの質疑で水道料金の問題云々という話しましたが、これでも、ああいった財源は十分これで賄えるだけの金額でございますし、これだけ大きな減収ということで、これまでこの特別土地保有税がたしか実施されてからかなりの年限も経っているというふうに理解もするわけで、今回こういう形で大きな財源上の不足が、穴があいたということが言えるかと思うんですが、これに対する処置といいますか、穴を埋めるための処置といいますか、そういうものは例えば特別交付税等何らかの処置であるのかなのか。一方的に自治体の方がその分をかぶらなければならないものなのかどうか、この辺についてお聞かせを願いたいということと、この問題について、市町村に一方的に負担がされるものだと思えばゆゆしき問題だと思いますので、やはり国に対するこの問題についてのお考えをお聞かせを願えればと思います。

○総務部長（川畑喜代志君） お答えに入ります前に、特別土地保有税のいわゆる減額になる分でございますが、5354万ということですので御訂正をお願いしたいと思います。

ただいまの御質問の件でございますが、減額になった分につきまして何らかの補てん措置があるかということでございますが、現在のところそういう話は聞いておりません。従来からと申しますか、この制度が発足しましたのは48年からでございますが、その後53年に恒久的な施設をつくるものについては税は課さなくてもいいんだという制度改正がございましたし、それから57年度にはこれから新規に取得するものにつきましては10年間の課税期間でそれを過ぎたら税は課さないというような制度改正が順次なされてきておりまして、今回の改正もその一環と申しますか、いわゆる土地騰貴は大分少なくなったという関係でされたとわれわれは考えておるわけですが、そういう意味におきまして従来どおりそういう措置は講じられてないということでございます。

それから、特別交付税の問題でございますが、今申し上げたとおり措置はされないかと思うんですが、地方で収入が減った分だけ、それだけ地方交付税の普通分でもって補てんされるというように私どもは考えております。

以上でございます。

○議長（石井 正君） 他に御質疑ありませんか。——御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

委員会付託の省略

○議長（石井 正君） お諮りいたします。

本案については委員会の付託を省略いたしたいと思ひます。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（石井 正君） 御異議なしと認めます。よって、委員会の付託を省略することに決しました。

討 論

○議長（石井 正君） これより討論を行います。

討論ありませんか。

○1番（神田守隆君） 今回の市税条例の一部改正の専決処分でございますが、地方税法の改正に伴うものであります。この地方税法の改正自身重大な問題点が今の質疑の中にでもあろうかと思ひます。

第1点は、個人市民税の均等割といういわば大衆課税としての性格を大変強くしたもので、低所得層への負担を重くしている点、その一方で特別土地保有税を課税対象外にする処置をとったということで、これは地方自治体の財源に大きな影響を及ぼしていること、さらに土地政策の上からいっても遊休土地を放出させていくというような特別土地保有税の趣旨からいっても非常に今回の処置は後退的な性格を持っているわけで、この処置自身認めがたい、という点を主張いたしまして反対いたします。

○議長（石井 正君） 他に討論はございませんか。——討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

採 決

○議長（石井 正君） これより採決いたします。

採決は起立により行います。

本案を承認することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

○議長（石井 正君） 起立多数であります。よって、本案は承認することに決しました。

議案の上程

○議長（石井 正君） 日程第2、議案第25号昭和59年度館山市一般会計補正予算の専決処分の承認についてを議題といたします。

御質疑を願います。御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

委員会付託の省略

○議長（石井 正君） お諮りいたします。

本案については委員会付託並びに討論省略、直ちに採決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（石井 正君） 御異議なしと認めます。よって、決定いたしました。

採 決

○議長（石井 正君） これより採決いたします。

本案を承認することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（石井 正君） 御異議なしと認めます。よって、本案は承認することに決しました。

議案の上程

○議長（石井 正君） 日程第3、議案第26号昭和60年度館山市と畜場特別会計補正予算の専決処分の承認についてを議題といたします。

御質疑を願います。御質疑ありませんか。——御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

委員会付託の省略

○議長（石井 正君） お諮りいたします。

本案については委員会付託並びに討論省略、直ちに採決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（石井 正君） 御異議なしと認めます。よって、決定いたしました。

採 決

○議長（石井 正君） これより採決いたします。

本案を承認することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（石井 正君） 御異議なしと認めます。よって、本案は承認することに決しました。

議案の上程

○議長（石井 正君） 日程第4、議案27号乃至議案第33号の各議案を一括して議題といたします。

質 疑 応 答

○議長（石井 正君） これより質疑に入ります。

通告がありますので、発言を許します。

1番議員神田守隆君。御登壇願います。

（1番議員神田守隆君登壇）

○1番（神田守隆君） 議案の第27号館山市国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定について御質問いたします。

議案の説明資料の19頁によりますと、今回の課税の総額は14億6000万余円、これに対し実際の課税方法は所得割、資産割、被保険者均等割、世帯別平等割とそれぞれに配分があって、それらによって具体的な課税額は決まるようになっているわけでありましたが、ここでは所得に対する国保税はどのくらいの水準なのかを見てみたいと思うわけでありま

す。こうした点で見るとき、所得割の課税基準額14億1346万9000円に対し先ほどの14億6000万余円は10.3%になるわけでありま

す。国保の加入者は平均して所得に対し10%を超える負担をしていると言えます。しかし、実際には限度額を超える高所得者はその率は低くなっているかと思

います。相対的に低所得層ほど負担割合が高くなっていることが考えられます。

そこで、ほかの医療保険に比べ、国保の負担割合がどの程度のものなのかを検討していただきたいと思うわけでありま

す。例えば、具体的に月収15万円程度でボーナスを含め年収240万円ぐらいの給与所得者というものを想定してみた場合、この標準家庭をモデルに選んだ場合、政府管掌健保との比較をした場合、どのようになるのか。この世帯は所得水準では約150万円程度になると思うわけでありま

す。国保と政管健保の比較ではどのようになるのか御説明をいただきたいと思うわけでありま

す。

以上、御答弁によりまして再質問をさせていただきます。

(市長半澤良一君登壇)

○市長(半澤良一君) 神田議員の御質問にお答えをいたします。

国保税と他の医療保険の保険料は、各保険者の財政規模、保険給付方法等によっていろいろ相違がございますが、最も一般的な政管健保と本市の国保との負担を比較してみますと、御指摘の月収15万円、年収240万円の勤労者で夫婦、子供2人の標準家庭で、本市の国保は14万6240円、政管健保では7万5600円となります。したがって、国保税につきましては年間所得の9.7%を占め、社会保険料は5%を占めるということになります。

○1番(神田守隆君) 月収の大体15万円程度というような1つのそれほど高い給与水準とも思えません、相対的に低いというふうに言っていると思うんですが、しかし、実際に国保の所得割の課税基準額を割り返し

てみると、大体、平均館山市の国保よりちょっといい程度かなというぐらいのが水準だろうと思うんですね。そうしますと、大体この基準からみますとかなり倍ぐらいのやはり——倍までいきませんけれども、倍近いやはり負担がある、大変高い負担ではなかろうかなというふうに思うんです。

全国的にもこういうような非常に高いんだということはこれまで指摘されてきたわけですが、こういう1つのモデルという形で選んでみた場合に改めて大変高いということを感じるわけで、だとすると、やはりこれは本来でしたら国が高くなる分については補てんして私は当然だろうというふうに思うわけですが、こうした高い実態を踏まえて市長さんは財政調整基金の取りくずしもされたと思うんですね。しかし、かなりの高いという実態からした場合にもっと考える必要があるんじゃないか、政管健保に対して極めて高いという現状について、やはり一定の市独自の財政処置を考える必要があるんじゃないかなと思うんですが、いかがですか。

○市長（半澤良一君） 国保税の高いことはきのうの議会でも私も認めたとおりでございますが、何と申しましてこれは今の日本の医療保険制度の矛盾が集約的に国保にきている、すべてのしわ寄せが国保にきている、そういうことでございますので、一自治体だけの問題ではないわけでございます。

根本的には、やはり医療保険制度そのものを抜本的に改正しない限り解決できる問題ではない、したがってその対処も自治体だけでできる問題ではないというふうに考えているわけで、ただ国の方でもいろいろ考えてはいるようではございますけれども、地域保険と職域保険ですか、そういうような2本立てにしようというようなことを言っているようですが、私自身として考えますと、国民皆保険の時代でありますので、全国一本にして国民が等しくその保険の利益を受ける、同時に平等にその負担をする、そうなければならないと思うわけですが、やはりそれぞれの制度が歴史的な経過もあり、いろんな事情もあるようでございますので、なかなか難しいというのが実態でございます。

私どもとしては、これから何とかこの矛盾を早期に解決して、医療保険制度一本化を目指して努力すべきだと考えているところでございます。現在の段階では各自治体だけで独自で処置をすることは、それぞれの自治

体いろいろ財政事情もございますけれども、館山市のように財政力指数の極めて低い——0.6でございます、独自の処置はできないというふうに考えているところでございます。

○議長（石井 正君） 以上で1番議員君の質疑を終わります。

以上で通告者による質疑は終わりますが、通告をしない議員で御質疑はありませんか。——御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

委員会付託

○議長（石井 正君） ただいま議題となっております議案第27号乃至議案第33号の各議案はお手元に配付の議案付託表のとおり、所管の常任委員会に付託をいたします。

請願書の上程

○議長（石井 正君） 日程第5、請願第4号快速列車の実現を求める請願書を議題といたします。

請願書の朗読を願います。

（書記朗読）

○議長（石井 正君） 朗読は終わりました。

請願書の趣旨説明

○議長（石井 正君） 次に、請願趣旨について紹介議員の説明を求めます。

（2番議員田沢勝信君登壇）

○2番（田沢勝信君） 請願第4号快速列車の実現を求める請願について御紹介いたします。

ただいま請願が朗読されましたので、その趣旨についてはおわかりいただけたと存じます。

1970年代は朝6時台の館山発の快速列車があり、また夕方には7時台に館山に到着する快速電車があったことは御存じかと思います。この快速電車の存在は通勤者、あるいはまた館山を訪れる方々にとっても時間的

にいても、経済的にいても、大変貴重な存在としてその果たす役割も大きなものがあったと思います。

しかし、その後国鉄ダイヤ改正により快速電車がなくなり、特急電車にとってかわりました。特急列車も利便性があるわけではありますが、乗車料金、あるいはまた時間等考えますと快速電車の復活が望まれているわけがあります。

現在、君津から東京を經由し久里浜までの快速が10往復しております。この請願趣旨はこの10往復している快速電車に対しまして、館山発の快速電車朝を1本、また夕方7時台に到着する快速電車を1本、その快速の電車の実現を求める請願であります。

議員の皆さんの全員の御賛同を賜りたく、ここに御紹介をいたします。

○議長（石井 正君） 説明は終わりました。

委員会付託

○議長（石井 正君） 本請願書につきましては総務委員会に付託をいたします。

請願書の上程

○議長（石井 正君） 日程第6、請願第5号「非核平和都市宣言」の決議を求める請願書を議題といたします。

請願書の朗読を願います。

（書記朗読）

○議長（石井 正君） 朗読は終わりました。

請願書の趣旨説明

○議長（石井 正君） 次に、請願趣旨について紹介議員の説明を求めます。

（2番議員田沢勝信君登壇）

○2番（田沢勝信君） 請願第5号「非核平和都市宣言」の決議を求める請願について御紹介をいたします。

間もなく私たちは原爆による被爆から40周年を迎えます。核兵器の廃

絶は世界唯一の被爆国日本の国民、あるいはまた館山市民としての心からの希求であることは申し上げるまでもございません。核兵器はつくりたくない、持たない、持ち込ませないとする非核三原則により固く守られているとは思いますが、今こそわが国の国是であります非核三原則を市民の心として館山市民が、自治体といたしましても非核平和都市宣言を策定し、そして世界の人々に対しまして核兵器の廃絶を求めよう、そのような実現を図ろう、そのような趣旨の請願でございます。

議員の皆さんの御理解をいただきまして、ぜひ館山市非核平和都市宣言が実現することを訴えまして、請願の御紹介にかえさしていただきます。皆さんの御協力をぜひ得たいと存じます。よろしくお願いします。

○議長（石井 正君） 説明は終わりました。

委員会付託

○議長（石井 正君） 本請願書につきましては総務委員会に付託をいたします。

延 会 午前 10 時 32 分

○議長（石井 正君） お諮りいたします。

本日の会議はこれにて延会いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（石井 正君） 御異議なしと認めます。よって、本日はこれにて延会することに決しました。

なお、明 26 日及び 27 日は委員会での議案審査のため休会、次会は 6 月 28 日午前 10 時開会といたします。

その議事は、議案第 27 号乃至議案第 33 号等に係る委員会における審査の経過並びに結果の報告、討論、採決といたします。

○本日の会議に付した事件

1 議案第 24 号乃至議案第 33 号

1 請願第 4 号及び請願第 5 号